

# 地域防災力の高い魅力あふれる秦野に向けて 政策提言書




## 秦野市議会 総務常任委員会

委員長	中村 英仁	副委員長	小山田良弘
委員	大塚 毅	原 聡	相原 學
	八尋 伸二	古木 勝久	今井 実

## 政策提言に至ったきっかけ

- ✓ 近年の気候変動の影響で、大規模な災害が頻発に発生している
- ✓ 令和6年1月1日には、能登半島地震が発生した
- ✓ 前回と同様「防災」をテーマとして取り上げたが、今回はより具体で実践的な提言とする

## 本市の現状と課題

- ✓ 多くの巨大地震の教訓を踏まえた防災・減災対策、避難計画が生かせない状況が起きている
- ✓ 時代の潮流はデジタル化と言えるほど、AIやDXなど急激な進展を遂げているデジタルの波に乗り遅れることのないよう施策が必要
- ✓ 少子高齢化や核家族化、地域コミュニティの低下による社会への影響を抑えることが必要
- ✓ 自治会加入率の低下により、自治会未加入者への情報が不足している
- ✓ 要支援者の情報が自治会長等一部の役員に限定的に提供されている状況なので、いざという時に救助できない
- ✓ 防災意識が希薄化しているとともに、家族や隣近所の安否確認ができない

## 大きな課題

- ✓ デジタル等新技術の活用が必要
- ✓ 地域における防災力の強化（地域力の発揮）が必要

## 解決に向けて

- ✓ 要介護高齢者や障がい者等の避難行動要支援者の情報管理
- ✓ 自治会を中心に避難支援等関係者の連携体制を整える

**「誰ひとり取り残さない防災の取組み」が必要**

## 0 | 秦野市総合防災情報システムの存在を市民へ周知

市民にとって災害状況の早期把握は、避難時の適切な行動に繋がり、命を守ることに繋がる。また、大規模災害が発生した場合、行政が発信する情報に加え個々の判断が必要になるため、まずは「秦野市総合防災情報システム」を普及すること

### 【具体的な取組案】

- 1) 自治会や民生委員などへの周知（勉強会の実施）
- 2) 紹介動画（動画サイトへの投稿）の作成による周知
- 3) 「秦野市総合防災情報システム」を連想するキャラクター（マーク）を作成し、ホームページや市公式LINEなどのリンク先ボタンとして掲示
- 4) 作成したキャラクターに2次元バーコードを入れ、シールやマグネットとして、各家庭へ配布し、スマートフォン（カメラ）から容易・瞬時にアクセス可能
- 5) 知ることにより得ることができる情報を発信

提言

## 02 防災訓練等で秦野市総合防災情報システムの利用

「秦野市総合防災情報システム」には、災害の予防や災害発生時の情報が集約されており、昨今の局所的な豪雨や土砂災害、河川増水などに対しては、避難のタイミングや避難の場所、そして避難経路などを個人（各家庭）で判断することが、命を守ることに繋がる。そのためには、システムの機能を市民に利用・活用すること

### 【具体的な取組案】

- 1) 自治会や民生委員などへ機能を知るためのゲーム大会を実施
- 2) 小・中学校で機能を知るため、システムを活用したオリエンテーション大会やゲーム大会、クイズ大会を実施
- 3) 「はだのモーピク」で実施しているが閲覧数が低迷しているため、興味を持ち見てもらえるコンテンツへのバージョンアップを実施
- 4) 本市で発生する可能性が高い災害に有効な機能の操作を動画（動画サイトへの投稿）作成
- 5) OMOTANコインアプリ内にリンクを張り、経由で月数回アクセスした場合、防災ポイントを数ポイント付与

## 03 要支援者情報の拡充と地域共有

誰もが安全に避難でき、支援が必要な人を助けるための情報を共有し、住民同士が支え合う仕組みを構築すること

### 【具体的な取組案】

- 1) 要支援者の登録  
自治会や民生委員が把握する情報をもとにリストを作成
- 2) 避難資器材の整備  
配備状況を定期的に確認し、更新
- 3) 情報の共有  
個人情報保護の観点を踏まえた適切な管理
- 4) 避難計画の作成  
要支援者ごとに、避難経路、支援方法、連絡先などを記載した計画を作成
- 5) 避難訓練の実施  
災害を想定した避難訓練を定期的に実施し、実際の避難時に備える
- 6) 情報の適切な運用  
個人情報を厳重に管理し、必要な関係者間で共有

## 04 みんなで作る防災マップの作成

地域の防災力向上のため、あらゆる災害を想定し、高齢者や子ども、要支援者など多くの住民参加のもと、地域の実情に応じた住民主体の防災マップを作成すること

### 【具体的な取組案】

- 1) 地域の詳細な状況を反映  
まち歩きを実施し、居住地域の発見、再認識を行う
- 2) 範囲の設定  
避難には日常的なコミュニティが重要であるため、自治会単位を基本
- 3) アクセシ性の向上  
紙ベースのみならず、アプリの活用によるデジタルデータも作成
- 4) 地域住民との協力協働  
住民とのワークショップやヒアリングを実施
- 5) データ収集とマップ作成  
まち歩きを通じた情報収集の他、GIS（地理情報システム）を活用したデータ解析を行う

提言  
05

## 地域で考え、地域で取り組む自主防災活動

地域の特性に応じた避難行動マニュアルを作成するとともに、四季折々の防災訓練を実施し、いつでも安心して避難できる体制をつくること

### 【具体的な取組案】

- 1) 地域特性を考慮  
斜面、河川、低地などの地域の地形を分析し、適切な避難ルートを設定
- 2) 災害の種類に応じた訓練  
地震、台風、大雨、洪水、土砂災害など、それぞれの災害に適した避難方法を訓練
- 3) 繰り返しの実施と多様な条件での訓練  
訓練は年に数回実施し、参加率の向上を図る
- 4) 要支援者への配慮と人材育成  
地域住民の中から要支援者をサポートできる人材を育成
- 5) 地域の連携強化  
消防・警察・自治体と連携し、実践的な訓練を行う